

ヒト中心で都市的魅力にあふれるまちの実現に向けた空間利用

沼津市 都市計画部 まちづくり政策課

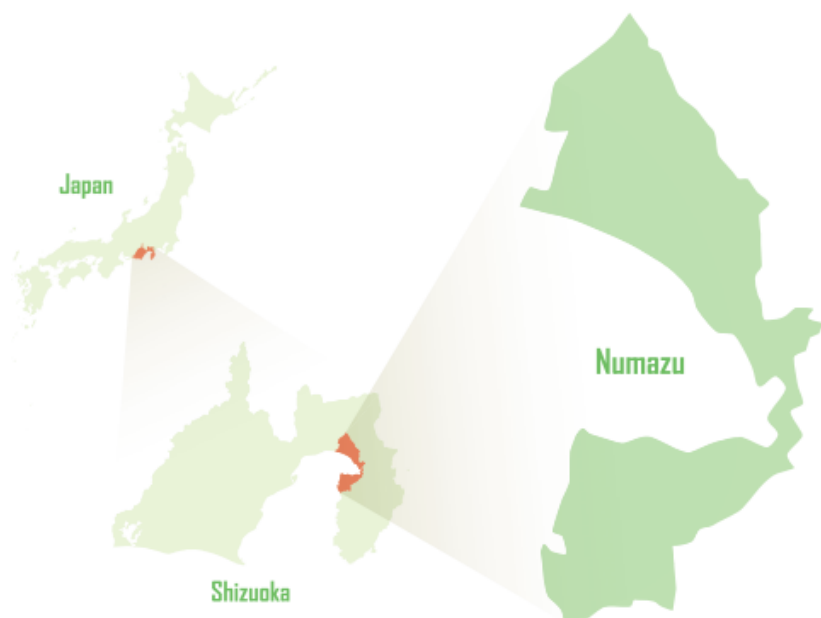
1. はじめに

沼津市は首都圏から約 100km に位置する静岡県の東部地域にあって、人口約 19 万人を有する広域拠点都市であり、古くから、政治・経済・文化の中心的な役割を担ってきました。市の北部には富士山を仰ぐ愛鷹山南麓の丘陵地が広がり、南部には変化に富んだ美しい海岸線が形成され、中心部にも旧東海道沿いの千本松原や狩野川、香貫山など、海・山・川の豊かな自然環境に恵まれています。

交通面では、市の中心部に JR 東海道本線及び御殿場線の沼津駅が、その北側には国道 1 号が東西に走り、北部には東名高速道路及び新東名高速道路のインターチェンジやスマートインターチェンジが 4 箇所立地するなど、県東部の交通結節点として、交通アクセスに優れた都市です。

沼津市では、中心市街地において、沼津駅の鉄道高架事業を中心とした「沼津駅周辺総合整備事業」を進めています。この本格展開と併せて、中心市街地の公共空間を車中心からヒト中心の空間に再編し、人々にとって魅力的で高質な空間の創出を目指すべく、「中心市街地まちづくり戦略（以下、本戦略）」を令和 2 年 3 月に策定しました。

本稿では、本戦略の内容と戦略の実現に向けた、現在の取組について紹介します。



静岡県・沼津市の位置



2. 沼津市中心市街地まちづくり戦略

(1) 4つの戦略

本戦略は、沼津駅周辺を「車中心からヒト中心の魅力ある場所へと再生」し、多くの市民や来街者が集い、交流し、住まい、回遊する都市の顔として再構築していくために、沼津駅周辺総合整備事業と本格展開と併せて実施すべき、まちづくりの施策の方向性を示すもので取り組むべき施策の方向性として「4つの戦略」を位置付けています。

この4つの戦略のうち、「戦略Ⅰ：ヒト中心の公共空間の創出」は、駅周辺の公共空間、交通の再編に係る施策となります。以下、「戦略Ⅰ」の内容を中心に記載します。

戦略Ⅰ：ヒト中心の公共空間の創出

- 沼津駅周辺の公共空間を車中心の空間からヒト中心の空間に再編
- ヒト中心の公共空間を創出するため、駅周辺の地区交通体系を再編

戦略Ⅱ：拠点機能の立地促進

- 鉄道施設跡地を活用し、広域的な拠点都市にふさわしい都市機能の導入

戦略Ⅲ：まちなか居住の促進と市街地環境の向上

- スポンジ化を踏まえた居住機能の立地促進と魅力ある市街地環境の形成

戦略Ⅳ：周辺地域資源との連携

- 中心市街地と地域資源や周辺住宅地との連携強化

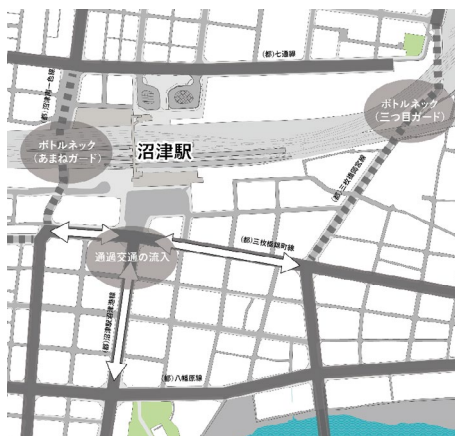
中心市街地まちづくり戦略の4つの戦略（施策）

(2) 駅まち環状の形成

沼津駅の東西にある南北の道路が2つのガードにより、交通渋滞の原因となっています。

沼津駅周辺総合整備事業により、駅と隣接街区を含む幹線街路ネットワーク「駅まち環状（水色の矢印）」を形成し、交通環境や市街地構造を大幅に改善します。

また、これらの変化を契機に、「駅まち環状」の内側がヒト中心の市街地となるよう、公共空間の再編とこれを実現するための地区交通体系の再編を図ります。とりわけ、駅前広場やこれに接続する街路について、車中心の空間からヒト中心の空間へと再構築する計画としております。



沼津駅周辺総合整備事業により「鉄道高架」、「土地区画整理」、「幹線街路（駅まち環状）」などが完成

駅まち環状の形成



(3) ヒト中心の公共空間の創出の実現に向けた方策

沼津駅の周辺は、今後、沼津駅周辺総合整備事業により、「駅まち環状」が形成される他、駅に隣接するオープンスペースが拡大する等、交通環境や市街地構造が大幅に改善します。

これらの変化を契機に、「駅まち環状」の内側がヒト中心の市街地となるよう、公共空間の再編とこれを実現するための地区交通体系の再編を図ります。

とりわけ、駅前広場やこれに接続する街路について、車中心の空間からヒト中心の空間へと再構築します。

ヒト中心の空間への再編にあたっては、単なる歩行空間の量的拡大ではなく、居心地よく佇み、交流できる「都市の広場」となることを重視します。

方策1：駅前広場の歩行者広場化

駅前広場を車中心の空間から、歩行者のための広場へと再編

方策2：駅周辺の回遊動線の整備

駅周辺の有機的な歩行者回遊動線を確保し、「オープンリング」を形成

方策3：駅アクセス街路の再編

南口駅前広場へのアクセス街路の車線数を減らし、歩行者・自転車のための空間を充実

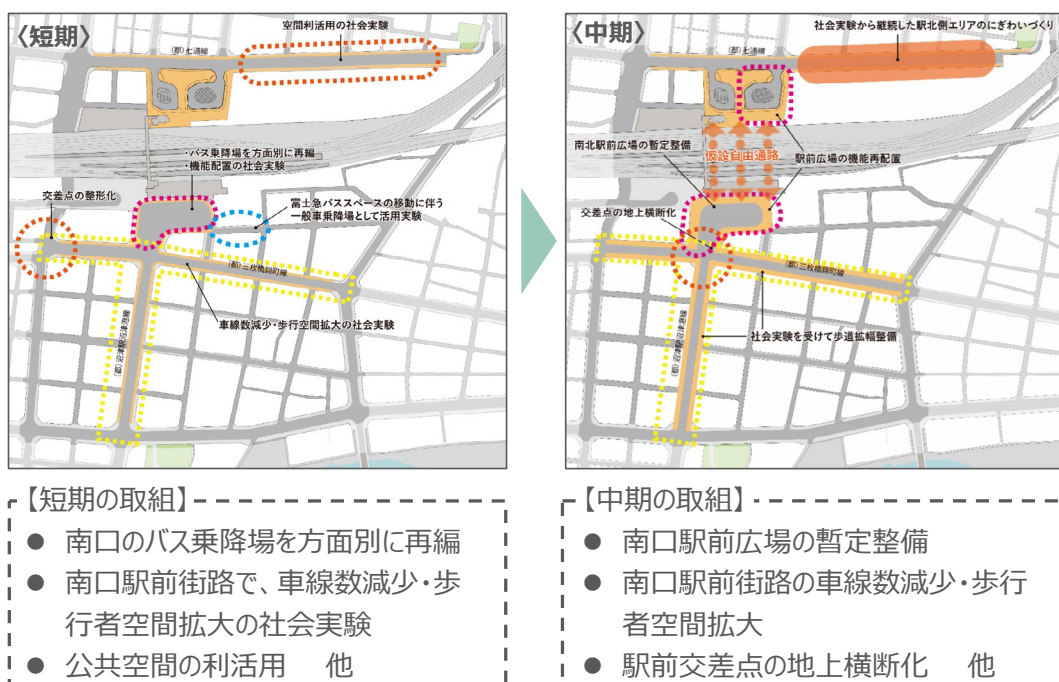
方策4：地区交通体系の再編

駅周辺における交通流の整序と駅前の自動車交通負荷の軽減を図る

(4) 段階的な取組

沼津駅周辺総合整備事業は、完成するまで長い期間を要し、事業効果は事業進捗に応じて短期、中期、長期と段階的に現れることから、空間、交通再編については、現在、5年から15年の中期までの取組の実現に向けて、実施及び検討を進めています。

中期の主な取組としては、「南口駅前広場の暫定整備」、「歩行者空間拡大の社会実験」、「駅前交差点の地上横断化」などを計画しています。



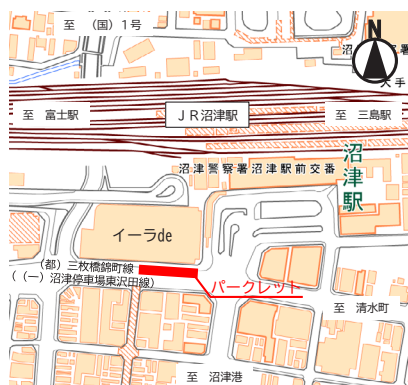
空間・交通再編イメージ

3. 戦略の実現に向けた取組

(1) 歩行者空間拡大の社会実験

南口駅前街路にて、公共空間の再編及び利活用に向けた車線数減少・歩行者空間拡大の社会実験を行っており、令和5年10月から、（都）三枚橋錦町線（県道）の車道一車線にて、パークレットを設置し、にぎわいを創出するための空間を設けています。

パークレットは、年齢、性別を問わず、多くの方に休憩や飲食、団らんなどで利用いただいております。日常の風景、空間として定着し始めております。今後、パークレット前後の空間も活用したにぎわいづくりの社会実験を検討していきます。



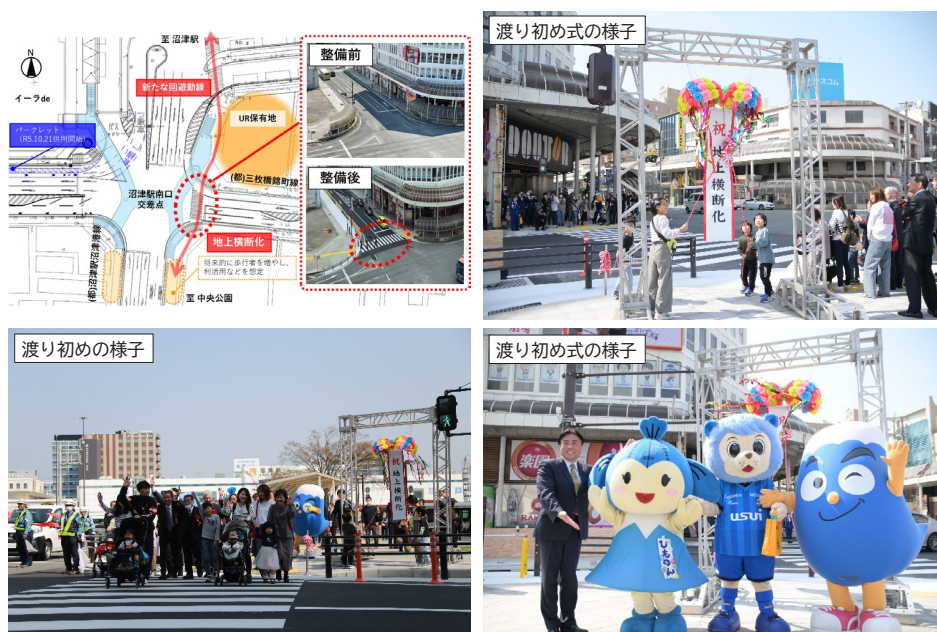
パークレット設置によるにぎわい創出の様子

(2) 駅前交差点の地上横断化

沼津駅南口交差点は、まちと駅をつなぐ最重要の交差点ですが、地下道を通じて移動しなければならず、地上横断ができないため、アクセス性が低く、来訪者にとって分かりにくい空間構成となっています。

この南口交差点を地上横断化し、駅とまちをつなぐ平面的な動線を確保することで、バリアフリーにも配慮した来訪者にとっても分かりやすい空間の創出に取り組んでいます。

令和7年3月27日には、1箇所目の地上横断化が完成し、渡り初め式を行いました。地上横断化したことで、ベビーカーや車いすの方の利用も見られ、新たな回遊動線ができるとともに、利便性の向上が図られました。



地上横断化の概要と渡り初め式の様子

4. 今後の展望

沼津駅周辺総合整備事業の完成時の長期的なまちの姿としては、駅前街路の空間を再編してトランジットモール化すること目標にしています。現在は、パークレットの設置や駅前交差点の地上横断化など一つずつ形にしており、これらを通じて、必要な検証と検討を積み重ねているところです。

また、道路行政セミナー 2025 年 4 月に掲載いただきました、当市の「沼津駅—沼津港間における走行空間整備による自動運転実証運行について」も、沼津市中心市街地まちづくり戦略の「戦略Ⅰ：ヒト中心の公共空間の創出」の施策の一つになります。

今後も引き続き、将来の公共空間の再編（トランジットモール化）や自動運転などを見据え、人々にとって魅力的で高質な空間の創出に向けた取組を進めてまいります。

最後に、パークレット設置や地上横断化の実施にあたり、お力添えいただきました関係各位の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。